

施工説明書

シャワートイレ



このQRコードはメーカー管理用です。

必ず実施

従来にはない施工手順を含みます。

機能部を取り付けるナットは強く締め付け過ぎないでください。⇒ 6 ページ「機能部の取付け」を参照

アメージュ ZA DT-ZA282 型 DT-ZA281 型
DT-ZA252 型 DT-ZA251 型

この度は当社商品をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。

注意

- この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
- 施工後は必ず試運転を行ってください。

施工業者さまへ

お客さまに必ず本書、取扱説明書、保証書・所有者登録のお願いをお渡しください。保証書の取扱店欄には、施工業者さまの住所、氏名、電話番号を明記のうえ、お客さまにお渡しください。なお、保証書・所有者登録のお願いは、製品本体に貼り付けてあるか、製品本体に同梱してあります。お渡しするときは、使用方法をご説明いただくとともに、所有者登録を行っていただきますようご説明ください。
※所有者登録の際、便フタ裏または製品本体の表示が必要となります。表示位置をお客さまに必ずお伝えください。
※定期的に点検が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

お客さまへ

本説明書以外の取付方法で、お取り付けされた際の故障・不具合などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。また、商品または商品の取付けに関するご相談は、お買い求めの取扱店にご相談ください。なお、LIXIL 修理受付センターでも商品の取付けを承っておりますが、その場合は別途料金が必要となります。

商品・施工方法についてのお問い合わせは、お客さま相談センターまで

ナビダイヤル TEL 0570-017-173

受付時間 平日 9:00 ~ 18:00 土・日・祝日 9:00 ~ 17:00(ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く)

施工手順

- 1 止水栓の取付け
- 2 便器の取付け
- 3 機能部の取付け
- 4 給水ホースの取付け
- 5 止水位の確認
- 6 電源の接続
- 7 リモコンの位置決め・取付け
- 8 試運転

安全のために守ってください!

シャワートイレを安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。施工前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

用語の説明

- 警告** ... 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。
- 注意** ... 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

警告

- 指示実行** 施工説明書に従い、正しく施工する。
※感電・火災・ケガの原因になります。
※漏水し、室内浸水の原因になります。
- 分解禁止** 分解や改造は絶対に行わない。
※感電・火災・ケガの原因になります。
- ぬれ手禁止** ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。
※感電の恐れがあります。
- 指示実行** 電源プラグの抜き差しはプラグ本体を持って行う。
※コード部を持って抜き差しを行うとプラグやコードが破損し、感電や火災の恐れがあります。
- 水かけ禁止** 本体や電源プラグに水や洗剤をかけない。
※感電・火災の原因になります。
- 禁止** ●AC100V以外では使用しない。
●タコ足配線はしない。
※感電・火災の原因になります。
- 指示実行** 電源プラグは根元まで十分差し込む。
※感電・火災の恐れがあります。
- 禁止** 電源コードにキズを付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしない。
※電源コードが破損し、感電・火災の恐れがあります。
- 禁止** ガタついているコンセントやアースターミナル付接地極付以外のコンセントは使用しない。
※感電・火災の原因になります。
- アース接続** アース線はコンセントのアースターミナルへ確実に接続する。
※接続しなかったり、不適切な接続では、感電・火災の原因になります。
※アースの接続は、電気工事店にご相談ください。
- 水場使用禁止** バスルームなどの湿気の多い場所には設置しない。
※感電・火災の原因になります。
- 禁止** 水道水以外に接続しない。
※機械内部の腐食により感電・火災および皮膚の炎症の原因になります。

注意

- 指示実行** 製品を接続する前に、必ず配管中の異物・サビなどを洗い流す。
※製品内部を傷めて漏水し、室内浸水の原因になります。
- 指示実行** 止水栓の調節と施工後の漏水点検を必ず行う。
※漏水し、室内浸水の原因になります。
- 指示実行** お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておく。
※凍結破損により漏水し、室内浸水の原因になります。
※凍結破損により火災の原因になります。
- 指示実行** 新築・改修工事後や、水道断水の復旧後は、必ず配管内の空気を抜く。
※配管内に空気が混入した状態で給水器具を使用すると、器具・配管の破損や故障の原因となり、けがをしたり水漏れによって建物、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。

電源の確認

配線工事およびコンセントの設置は、下記に準じた工事を行ってください。配線工事は電気工事店にご依頼ください。
●コンセントは AC100V、定格消費電力 300W に適したアースターミナル付接地極付コンセントを使用してください。
すでにアースターミナルのない接地極付コンセントや接地極付ではないコンセントが施設されている場合は、アースターミナル付接地極付コンセントに変更してください。また、ヒーター付便器や他の電化製品と併用する場合は、数に応じたコンセントを設置してください。
●定格消費電力に適した配線を行ってください。
●必ずアースターミナルは、D 種接地工事に準じた工事を行ってください。
アースターミナルには、確実にシャワートイレのアース線を接続してください。
●コンセントはコード類の届く範囲で、床面より高く水のかからない位置に設置してください。電源コードおよびアース線の長さは 1000mm です。
※施工が完了するまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。故障する恐れがあります。

使用する水は?

- 給水は必ず水道水に接続してください。中水道や工業用水、井戸水などを使用すると電気部品や機械部品の耐久性が低下して、事故の原因となります。
- 給水圧力は 0.06 ~ 0.75MPa 必要です。0.06MPa 未満の場合は、お求めの取扱店にご相談ください。

機能部を設置する前に

機能部は、便器を設置してから施工してください。

機能部を床に置かない

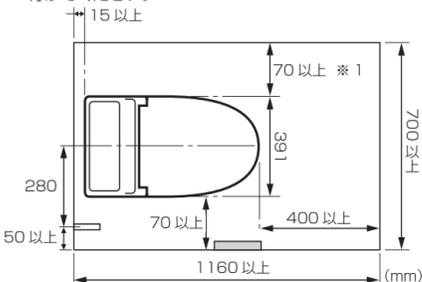
機能部を床に置くことは、絶対にしないでください。
※部品が破損する恐れがあります。

準備工具

- モンキーレンチ (26mm 以上調節可のもの) またはスパナ類 (17、21 ~ 26mm)
- プラスドライバー
- マイナスドライバー
- ハンマーなど

必要なスペースは?

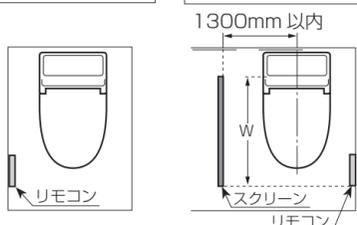
- 必要なトイレスペースは下図のとおりです。
- ※1 製品に向かって右側・左側ともに 70mm 以上の空間を確保してください。70mm 未満ですと動作の妨げになる場合があります。
 - ※2 タンク上部に棚などを設置する場合、おそうじリフトアップやタンク点検のため、床から 1150mm 以上の空間を確保してください。
 - ※3 止水栓の標準取付位置は便器中心から 280mm になります。止水栓は壁から 50mm のスペースを空けて取り付けてください。



リモコンの取付位置は?

リモコンはできる限り、向かって左側の壁に取り付けてください。

- 左側の壁にリモコンを取り付ける場合
- 右側の壁にリモコンを取り付ける場合



必要上、反対側の壁に取り付ける場合は、必ず取付位置で受信することを確認してから行ってください。また、向かって左側の壁が洗面台などで便器から距離がある場合は、受信しない場合があります。このようなときは便器中心から 1300mm 以内に信号反射用のスクリーンを設置してください。スクリーンの寸法は高さ 1100mm 以上、幅はリモコン受光部からリモコン設置位置まで (W) を確保してください。(ただし、壁の仕上げ・色 (特に黒っぽい色) などにより受信条件が悪くなる場合がありますので、ご注意ください。)

快適機能の設定はしないでください!

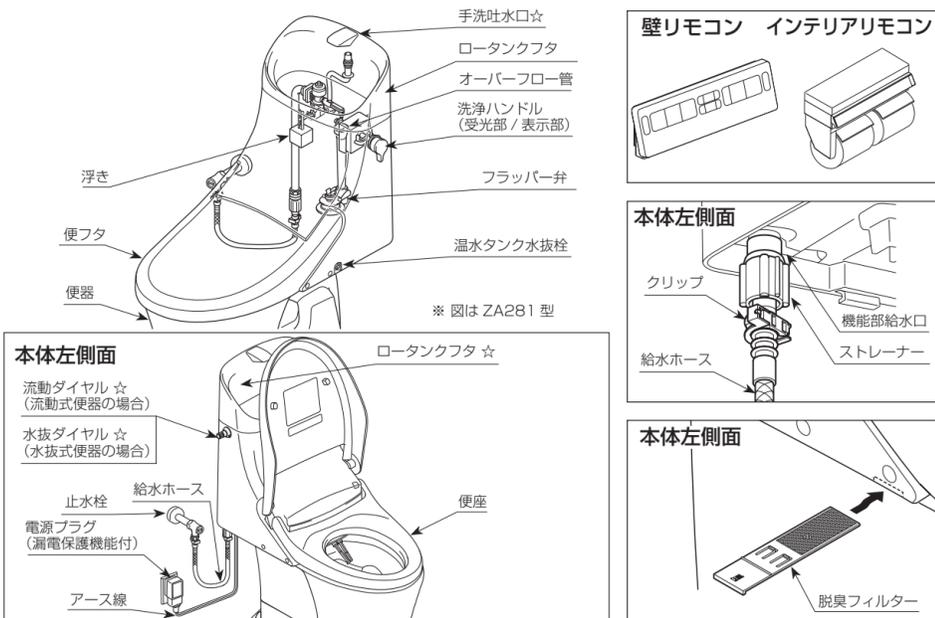
■快適機能の設定はお客さまにおまかせください。シャワートイレの快適機能は、お客さまの好みで設定する必要があります。もし、施工業者さまで設定する場合は、お客さまに設定した機能とその機能説明をお願いいたします。特に節電機能は、お客さまが意識していないと、便座や温水が冷たく感じる場合があります。

快適機能とは

お客さまにシャワートイレを快適にご使用いただくため、次のような機能が備わっています。
●便座・温水の温度 ●脱臭機能 ●節電機能 ●便座ヒーターオート OFF
* : 試運転確認後、必ず「低」に戻してください。
※機種によっては、一部機能がない場合があります。

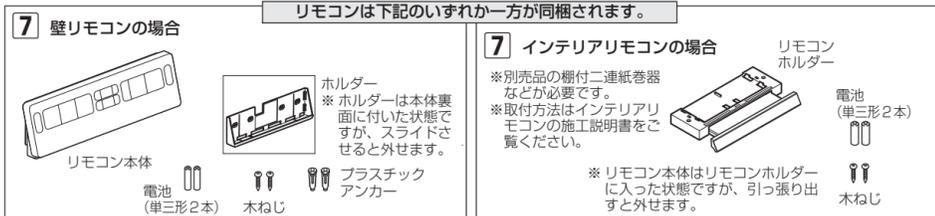
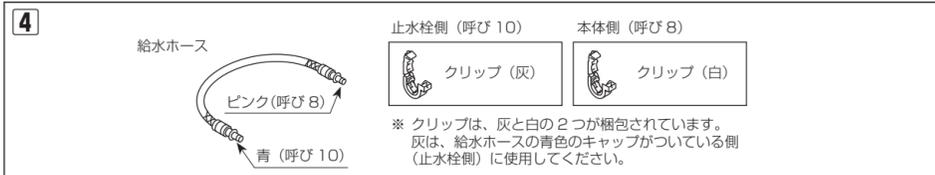
各部のなまえ

※機種によっては、一部機能 (☆印付) がいない場合があります。



同梱部品の確認

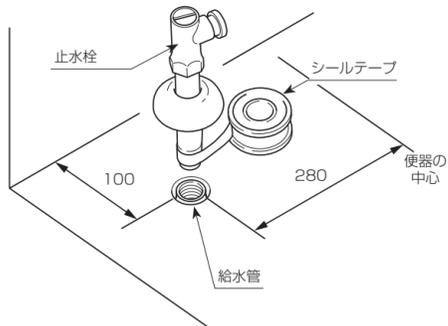
□内の数字は施工手順の番号を示しています。



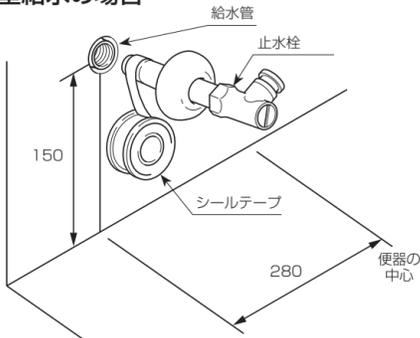
1 止水栓の取付け

1. 給水管に止水栓を取り付ける。
壁・床仕上げ完了後に行ってください。
ねじ部にシールテープなどのシール材を取り付けてください。
※取替用止水栓を使用する場合は、止水栓と同梱されている説明書を参照して取り付けてください。
※同梱されている止水栓は始めは開いているため、取付後にスピンドルを回して閉めてください。

●床給水の場合



●壁給水の場合



2 便器の取付け

1. 便器に同梱されている専用の施工説明書にしたがって、便器を取り付ける。

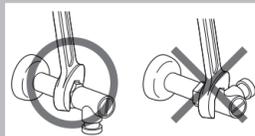
【注意 1-1】

- 止水栓に手をかけたり、踏んだりしない。
※配管がグラついたり、止水栓が破損して漏水の原因になります。
※壁や床を傷める恐れがあります。
- 止水栓の給水口は、給水ホースが折れないように取り付ける。
※止水栓の給水口の方向および、給水ホースの取廻し方法は、便器の排水方向により異なります。詳細は QR コードより資料をご確認ください。



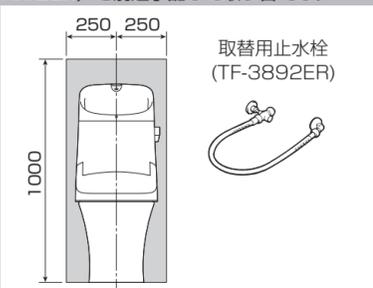
【注意 1-2】

- 工具は必ず工具掛け部（六角）に掛ける。
※止水栓が破損して漏水の原因になります。



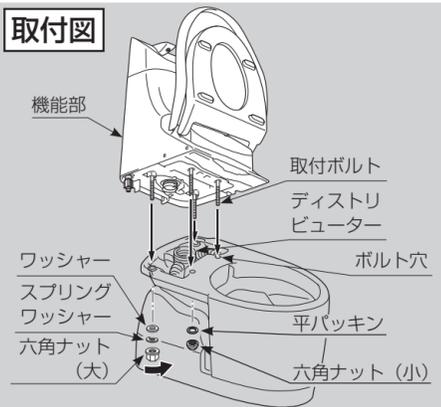
【注意 1-3】

- リトイレ便器（BC-ZA20H、BC-ZA20PM）とセットする場合、給水位置が下図（ロータンク背面のアミ部）にあるときは、取替用止水栓（TF-3892ER）を別途手配して取り替える。

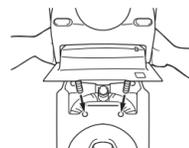


3 機能部の取付け

取付図



1. 機能部を便器に設置する。
【注意 3-1 参照】【注意 3-2 参照】
機能部下面にある取付ボルト 4 本と便器のボルト穴 4 個を合わせて機能部を設置します。
※前側の取付ボルトを見ながらボルト穴に差し込むと容易に取り付きます。



2. 機能部を仮締めする。
下図に従い六角ナットを手で仮締めします。
【注意 3-3 参照】



3. 機能部を固定する。

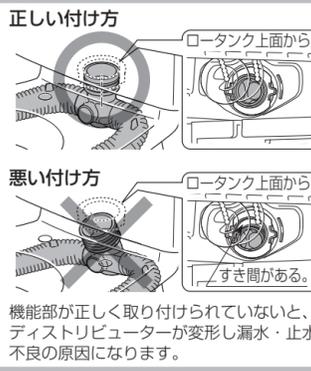
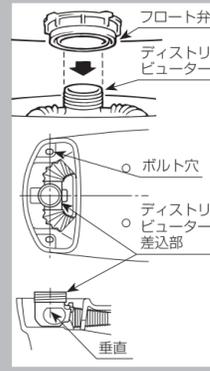
- 便器先端と便器先端を合わせて、六角ナットを手できつく締め同梱の工具で反時計回りに 2 回（360°相当）締め付けます。
※六角ナットをきつく締め付け過ぎると、リフトアップのロックがしにくくなります。（締付トルク 2.0 ~ 2.5 N・m [20 ~ 25kgf・cm]）



【注意 3-1】

- ディストリビューターの保護カバーは、タンク取付け直前に必ず外す。
- ディストリビューターは、必ずフロート弁ねじの内径部に確実にはめ込む。
※漏水・止水不良の原因になります。
- ディストリビューターを確実にはめ込むため以下の点に注意して機能部を設置する。

1. ディストリビューター差込部の中心とボルト穴芯が合っている。
2. ディストリビューター差込部が便器上面に対して垂直である。
上記の 2 点を満たしていない場合は、便器からディストリビューターをいったん取り外し、正しい位置と角度に取り付けなおしてください。

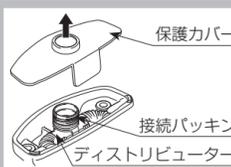


【注意 3-2】

- 電源プラグに衝撃をかけたり、便器内に水没させないように注意する。

【注意 3-3】

- 六角ナットは片利きにならないよう、左右交互に少しずつ締め付ける。
※漏水の原因になります。
- ナットの締め付けは必ず同梱のタンク固定ナット用工具を使用し、締めすぎに注意する。

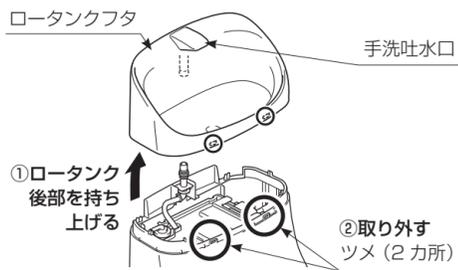


5 止水水位の確認

水圧によって止水水位が異なります。必ず確認してください。

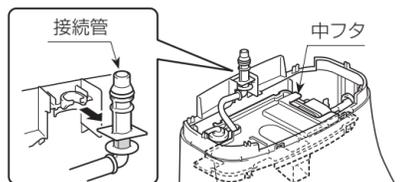
1. ロータンクフタを外す。

- ① ロータンクフタの後部を持ち上げます。
- ② 手前のツメ（2カ所）を外し、ロータンクフタを取り外します。



2. 中フタを外す。

- ① 手洗付の場合は、ロータンクから接続管を外します。【注意 4-2 参照】



- ② 中フタの手前側を持ち上げながら、手前に引きぬくように外す。

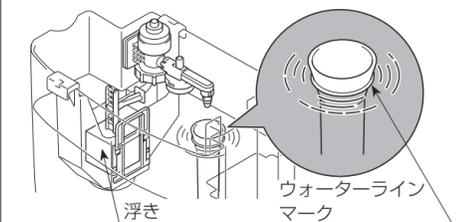


- ※ 手洗付の場合、通水している間は接続管をタンク内に向けておきます。
- ③ 止水栓を全開にして、ロータンクに通水します。
【注意 5-1 参照】【注意 5-2 参照】
【注意 5-3 参照】

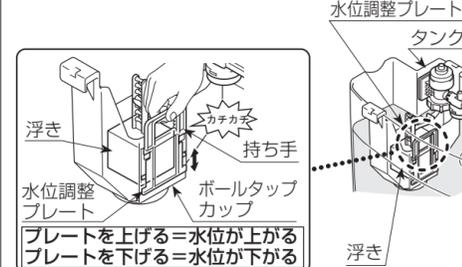
3. 止水水位を確認する。

- ① 給水が終わったらロータンク内の水位（水面）がオーバーフロー管のウォーターラインマークに合っていることを確認します。
【注意 5-4 参照】

水位がウォーターラインマークに合っていない場合は、②の作業を行います。

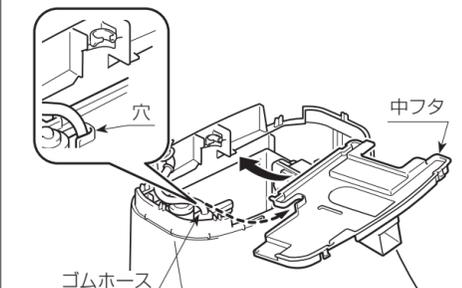


- ② ボールタップカップに付いている水位調整プレートで水位を調節してください。

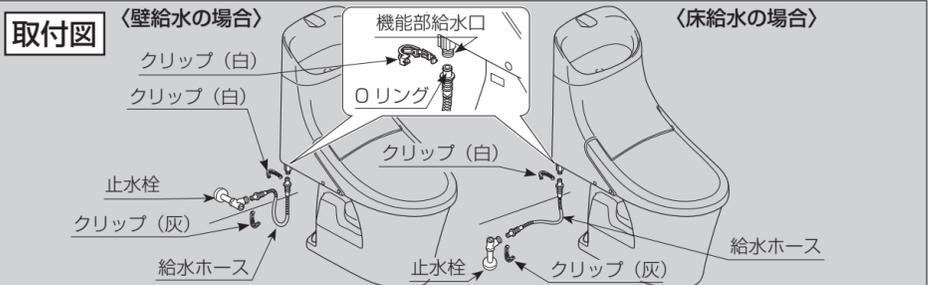


4. 中フタを取り付ける。

- ① 手洗付の場合は、中フタ後部の穴にゴムホースを通し、タンク手前から中フタを差し込みます。

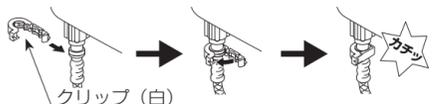


4 給水ホースの取付け



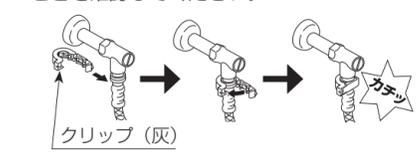
1. 給水ホースを機能部側に取り付ける。

- ① 保護キャップ（ピンク）を外します。
- ② 給水ホースを差し込みます。
【注意 4-1 参照】
- ③ クリップを取り付け、給水ホースと機能部給水口を確実に固定します。
・クリップに方向性はありません。
【注意 4-2 参照】【注意 4-3 参照】
【注意 4-4 参照】【参考 4-1 参照】
- ④ 取付後にクリップを回し、確実にハマっていることを確認してください。また、給水ホースを軽く引き、確実に接続されていることを確認してください。



2. 給水ホースを止水栓側に取り付ける。

- ① 保護キャップ（青）を外します。
- ② 給水ホースを差し込みます。
【注意 4-5 参照】
- ③ クリップで固定します。
・クリップに方向性はありません。
【注意 4-2 参照】
【注意 4-3 参照】【参考 4-1 参照】
- ④ 取付後にクリップを回し、確実にハマっていることを確認してください。また、給水ホースを軽く引き、確実に接続されていることを確認してください。



【注意 4-1】

- 給水ホース止水栓側のキャップは、止水栓と接続する直前に外す。
※ 施工中に給水ホース内へゴミなどが入り、止水不良となる恐れがあります。
※ Oリングにゴミが付着して、漏水・室内浸水の原因になります。

【注意 4-2】

- Oリングにキズを付けないように注意する。
※ Oリングが切れたりキズが付いたりすると漏水します。

【注意 4-3】

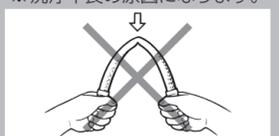
- クリップの先端が「カチッ」と音がするまで確実にハマ込む。
※ 漏水の原因になります。
- クリップは止水栓側（灰）と機能部側（白）を正しく取り付けます。
※ 大きさが異なるため、外れて漏水の原因になります。

【注意 4-4】

- クリップは本体の横から確実に差し込む。
※ 斜めから差し込むと、クリップを折り曲げて固定することができません。

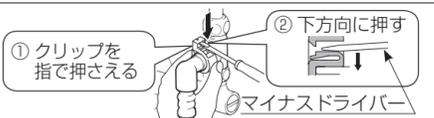
【注意 4-5】

- 給水ホースは鋭角に曲げたり、引っ張られている状態にしない。
※ 破損して漏水する恐れがあります。
※ 洗浄不良の原因になります。

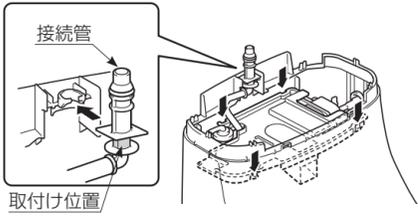


【参考 4-1】

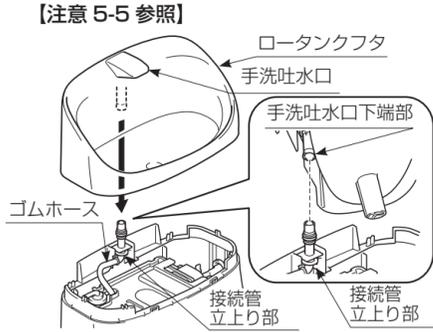
- クリップを外す際は、下方に押すようにして外す。



- ②中フタのツメ 4 力所 (図中矢印) を押さえます。
- ③手洗付の場合は、タンクに接続管を取り付けます。



5. ロータンクフタを取り付ける。
- ロータンクフタをロータンクに取り付けます。手洗付の場合は、手洗吐水口の下端部に接続管立上り部を確実に差し込んでください。



- 【注意 5-1】**
- 止水栓を全開にする場合は、固着を防ぐため、必ずスピンドルを全開の位置から 1/4 回転戻す。
- 【注意 5-2】**
- 止水栓を閉める場合は、はじめに軽く閉め、スピンドルが止まったところからさらに約 1/4 回転ほど (目安) 閉める。
- 【注意 5-3】**
- 止水栓のマイナス溝は樹脂製のため、キズを付けないように注意する。(マイナス溝に合ったマイナスドライバーを使用する。)

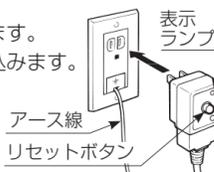
- 【注意 5-4】**
- 水位は必ず確認する。
※ オーバーフローによる止水不良や水量不足による洗浄不良 (紙づまり、汚物残り) の原因になります。
- 【注意 5-5】**
- 接続管は手洗吐水口の下端部に確実に差し込む。
※ 漏水の原因になります。
 - ロータンクフタが浮いていたり、グラつく場合は、差し込み不十分なので、再度差し込み直す。
※ 漏水の原因になります。
 - ゴムホースをつぶさないように取り付ける。

6 電源の接続

1. 電源プラグをコンセントに差し込む。

【注意 6-1 参照】

- ① アース線を接続します。
- ② 電源プラグを差し込みます。



2. 電源が入っていることを確認する。

本体の電源表示が点灯していることを確認してください。

- 洗浄ボタン / ハンドル (表示部)



⚠ 警告

- 確実にアース線をアースターミナルに接続する。
※ 接続しなかったり、不適切な接続状態では、感電・火災の原因になります。
- ※ コンセントにアースターミナルがない場合は、電気工事店にご相談ください。

【注意 6-1】

- 必ず施工が終了してから電源を入れる。
- 電源表示が点灯しない場合は、電源プラグのリセットボタンを押して、電源表示が点灯することを確認する。
- 便座に触れたままコンセントに電源プラグを差し込まない。
※ シャワーが出なくなる場合があります。(その場合は再度電源プラグを差し込んでください。)
- リセットボタンを押しても電源表示 (緑) が点灯しない (電源プラグの表示ランプが点灯する) 場合は、200V が通電していないかを確認する。

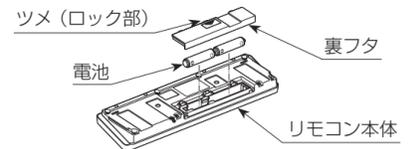
-9-

7 リモコンの位置決め・取付け

本書では壁リモコンについて説明しています。壁リモコン以外の施工方法については、リモコンに同梱されている施工説明書をご覧ください。

1. 電池の装着・リモコン取付位置の確認

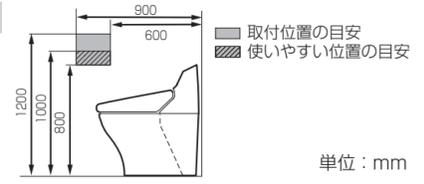
- ① リモコンの裏フタを開け、付属の電池 (単三形 2 本) を入れます。
※ 裏フタが開けにくい場合、マイナスドライバーなどの工具でツメ (ロック部) を押さえて外してください。【注意 7-1 参照】
- ② リモコンの取付位置を確認します。



■ リモコン取付位置

リモコンは操作できる範囲内に取付けてください。

右図の「取付位置の目安」の範囲で、便座に座った状態で操作しやすい場所に取り付けてください。万一、シャワートイレが作動しない場合、リモコンの位置を変えるか反対側の壁で確認してください。
※ インバーター照明やトイレ環境によりシャワートイレが作動しないことがあります。
※ リモコン信号を受信しない場合、障害物を確認し、その障害物を移動させるか、または移動が不可能であれば、リモコンの取付位置を移動させます。



※ 向かって右側に取り付ける場合、できる限り「使いやすい位置の目安」の範囲に取り付けてください。

■ 必ず便座に座って確認してください。

リモコンを取り付けようとする位置に仮置き、実際に便座に座ってスイッチを押します (施工完了後の試運転も必ず行ってください)。

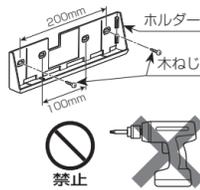
その後、便器前に立ち止スイッチを押して、本体表示部の電源表示が 2 回点滅 (受信正常) することを確認します。

- おしりやビデのスイッチを押すと水が噴出しますので注意してください。



2. リモコンの取付け

- ① ホルダーをリモコン本体から外す。
- ② ホルダーを壁の材質に合わせた施工方法で、取付位置に取り付ける。
【注意 7-2 参照】【注意 7-3 参照】
※ 取付穴は、外側 2 つの取付穴 (A のマーク) を使います。ただしネジ穴 100mm ビッチでしか固定できない壁の場合は、内側の取付穴 2 つを使ってください。

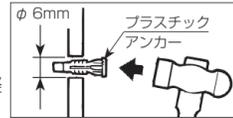


【厚みが 5mm 以上の合板壁の場合】

ホルダーを付属の木ねじでしっかりと固定します。

【厚みが 5mm 以下の合板壁および石膏ボード壁の場合】

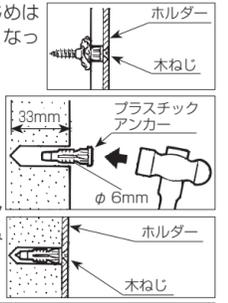
- ① 直径 6mm の下穴をあけます。(石膏ボードは 5mm)
- ② ハンマー等を使って、付属のプラスチックアンカーを軽く打ち込みます。



- ③ ホルダーを木ねじでしっかりと固定します。締め付けていくとはじめは強く、いったんゆるくなって再び堅くなります。

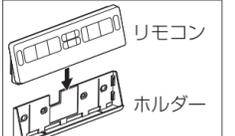
【コンクリートの場合】

- ① 直径 6mm、深さ約 33mm の下穴をあけます。
- ② ハンマー等を使って、付属のプラスチックアンカーを軽く打ち込みます。
- ③ ホルダーを木ねじでしっかりと固定します。



3. リモコンをホルダーの上に合わせ、下へ押し下げてリモコンを取り付ける。

※ リモコン本体をやや手前に傾けながら、ゆっくりと取付け・取外してください。壁に傷を付ける可能性があります。



併設されたシャワートイレの誤作動を防ぐために

【注意 7-4 参照】

シャワートイレを併設する場合は、他プースのシャワートイレも反応し誤作動を起こす恐れがあります。このような場合は、お買い上げのリモコンを使い信号変更ができます。リモコンの発信信号とシャワートイレ本体の受信信号を共に変更してください。

1. リモコンの発信信号の変更

- ① リモコンの電池をいったん外します。
- ② 下図の信号表に応じたスイッチを押しながら、電池を取り付けそのまま 6 秒 (おしり、ビデは 20 秒) 保持します。

信号番号	操作スイッチ	電池マーク点滅回数	信号番号	操作スイッチ	電池マーク点滅回数
信号 1	温水	1 回点滅	信号 4	洗浄強さ-	5 回点滅
信号 2	便座	2 回点滅	信号 5	洗浄強さ+	6 回点滅
信号 3	節電入 / 切	3 回点滅	信号 6	おしり	7 回点滅
信号 0	ノズルそうじ	4 回点滅	信号 7	ビデ	8 回点滅

※ お買い上げ時、「信号 0」となっています

- ③ 発信信号が変更された時、リモコンの電池マークが点滅します。(変更された信号により、点滅回数は異なります。)

2. 本体の受信信号の変更

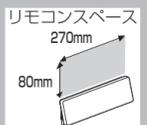
- ① 変更する機器の電源プラグをいったん抜きます。
- ② 再度、電源プラグを差し込んでから、10 秒以内に【止】を 10 回以上連続で押します。

【注意 7-1】

- 電池のプラスとマイナスの向きを間違いないように入る。
- 電池は、新しいものと古いものを混ぜて使用しない。
- 同梱の電池を使用する。

【注意 7-2】

- リモコン取付位置の上方に、リモコンを脱着する際に必要なスペース (右図参照) が十分あることを確認する。



【注意 7-3】

- 電動工具は使用しない。
※ 部品が破損する恐れがあります。

【注意 7-4】

- 上記作業は、屋内 (設備) のプレーカーで電源の入 / 切を行わない。
※ 同時に複数機の電源を入れると、他機の受信信号も変更される恐れがあります。
※ 機種によっては、設定できない信号があります。

-9-

● おしり・ビデ洗浄は正常ですか? 【注意 8-1 参照】【注意 8-2 参照】

1. 電源が入っていることを確認する。
2. 腕まくりをして、肌で便座に触れる。



確認機能	チェック欄	確認内容
おしりノズル	<input type="checkbox"/>	ノズルから水が出ますか? ※ 温水タンクが満水でない場合、洗浄強さが「弱」、「中」にあると、シャワーが出ないことがあります。必ず洗浄強さの設定を「強」にしてください。またシャワーが噴出するまでに約 1 ~ 2 分かかります。
	<input type="checkbox"/>	①【おしり】を押します。 ② シャワーが噴出するため、シャワーを手のひらで受けます。
ビデノズル	<input type="checkbox"/>	①【止】を押すと水が止まりますか?
	<input type="checkbox"/>	①【ビデ】を押します。 ② シャワーが噴出するため、シャワーを手のひらで受けます。 ③【止】を押すと、水が止まりますか?

※ シャワー使用時とその前後など、ノズル付近から水が出ますが、これは機能上必要なもので、故障ではありません。

3. 約 15 分たった後、温水が出るか、便座が温まるかを確認する。

確認機能	チェック欄	確認内容
おしりノズル	<input type="checkbox"/>	1. ノズルから適温の温水が出ますか? ①【おしり】を押します。 ② シャワーが噴出するため、シャワーを手のひらで受けます。
	<input type="checkbox"/>	2. 【止】を押すと温水が止まりますか?
暖房便座	<input type="checkbox"/>	1. 便座に手で触れ、暖かくなっていますか?

● 便器洗浄は正常ですか? 【注意 8-3 参照】

確認機能	チェック欄	確認内容
洗浄確認	<input type="checkbox"/>	便鉢内に長さ 760mm のトイレットペーパーを丸めたもの 7 個を入れ、1 回の洗浄で流れますか? ※ もし 1 回の洗浄で流れない場合は、下記の項目を確認してください。 ・ ストレーナーにゴミや詰まりはないか? ・ 止水栓を全開にしたか? ・ 給水ホースは折れていないか? ・ 水圧は適正か?

● おそうじリフトアップは正常に動作しますか?

確認機能	チェック欄	確認内容
リフトアップ 下端ロック 確認	<input type="checkbox"/>	おそうじリフトアップは下端でしっかりロックしますか? 下端ロックしない場合は、機能部取付用の六角ナットが締め付け過ぎている恐れがあります。一度六角ナットを取り外し、『機能部の取付け』に従って六角ナットを締め付け直してください。

【注意 8-1】

- インバーター照明下でリモコンを使用した場合、トイレの環境条件によりシャワートイレが作動しないことがあるので、照明を消して動作を確認する。

【注意 8-2】

- 着座センサーがあるため、おしり洗浄、ビデ洗浄は着座しないと作動しない。

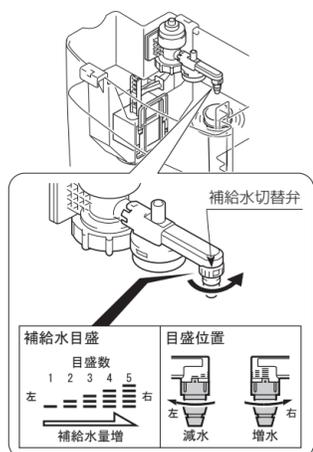
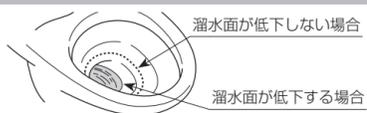
-11-

-12-

【注意 8-3】

● 溜水面が低下する場合は、便器の性能が十分に得られない可能性があります。下記の調整作業を行ってください。

- (1) ロータンクフタ・中フタを開けます。
- (2) 溜水面が低下しなくなるまで、補給水切替弁を反時計回りに回して調整します。

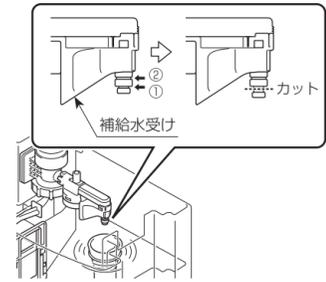


※調整の際は、ゴムホースを下に向けてください。

〈DT-ZA2*2APM 型の場合〉

- (1) ロータンクフタ・内フタを開けます。
- (2) 補給水受けの①の部分をニッパーなどでカットします。
- (3) (2)の作業をしても溜水面が低下する場合は、②の部分をニッパーなどでカットします。

〈DT-ZA2*2APM 型の場合〉



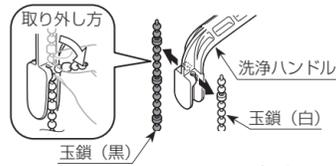
施工業者さまへ

お客さまに必ず本書、取扱説明書、保証書・所有者登録のお願いをお渡しください。保証書の取扱部欄には、施工業者さまの住所、氏名、電話番号を明記のうえ、お客さまにお渡しください。なお、保証書・所有者登録のお願いは、製品本体に貼り付けてあるか、製品本体と同梱してあります。お渡しするときは、使用方法をご説明いただくとともに、所有者登録を行っていただきますようご説明ください。
 ※ 所有者登録の際、便フタ裏または製品本体の表示が必要となります。表示位置をお客さまに必ずお伝えください。
 ※ 定期的に点検が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

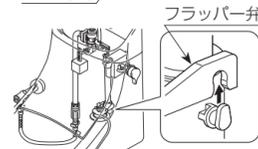
洗浄水量変更方法

変更後の洗浄水量：約大 8L

- (1) 止水栓を閉めます。
- (2) 洗浄ハンドルを操作してロータンク内の水を抜きます。
- (3) ロータンクフタ・中フタを外します。
- (4) 洗浄ハンドルから玉鎖を外します。
 ※ 工場出荷時の玉鎖取付位置：4 玉残し



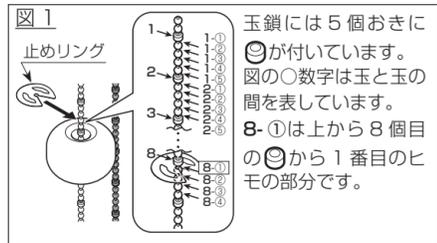
- (5) フラッパー弁を外します。
 DT-ZA2** 型の場合… (6) へ進みます。
 DT-ZA2**PM 型の場合… (7) へ進みます。



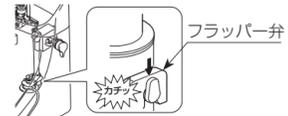
- (6) 水位調整筒を外します。



- (7) 止めリングの位置を右図を参考に 8-①の位置に合わせます。(図 1)



- (8) フラッパー弁を取り付け、スムーズに動くことを確認します。

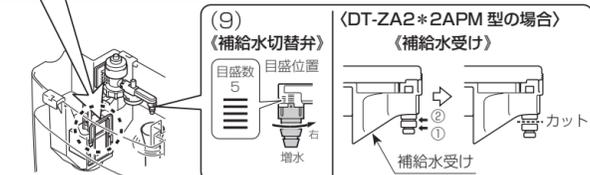


- (9) 補給水切替弁を右に回して図の位置（目盛数 5）に合わせます。

〈DT-ZA2*2APM 型の場合〉
 補給水受けの②の部分をニッパーなどでカットします。



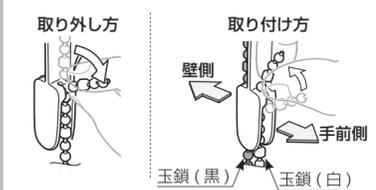
- (10) 水位調整プレートを目盛上げて 2 段目にします。
 ※ 工場出荷時の目盛位置：上から 3 段目



- (11) 洗浄ハンドルに玉鎖を取り付けます。
【注意 1 参照】 【注意 2 参照】
- (12) 中フタ・ロータンクフタを取り付けます。
【注意 5-5 参照】
- (13) 止水栓を全開にします。
- (14) 「⑧試運転」を行います。

【注意 1】

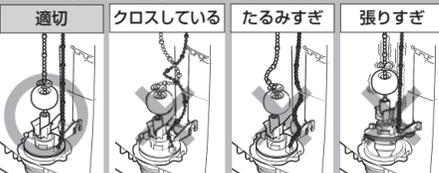
● 玉鎖は手前側が白、壁側が黒になるように取り付けてください。
 ※ 反対に取り付けると洗浄不良の原因になります。



● その後洗浄ハンドルを操作し、正常に動作することを確認してください。
 ※ 止水不良の原因になります。

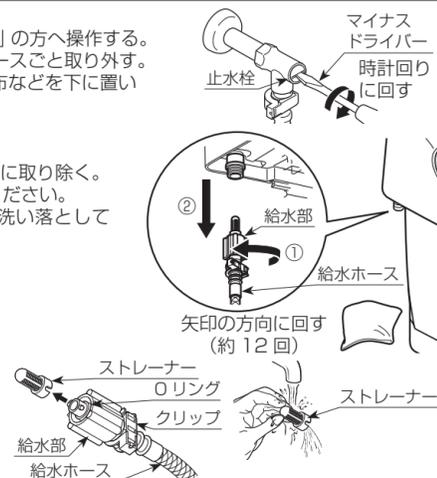
【注意 2】

● 鎖の張りすぎやたるみすぎがないことを確認してください。
 ※ 洗浄不良や止水不良の原因になります。



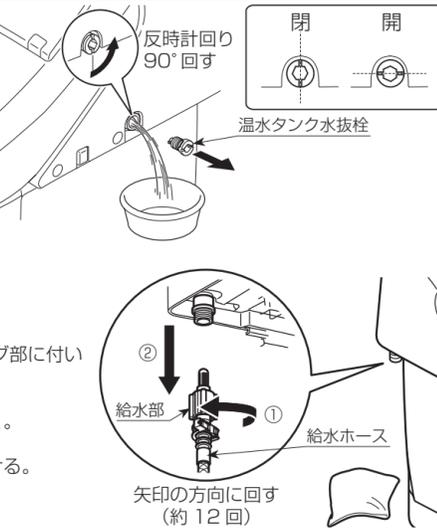
水の出方が悪い場合は、ストレーナーを掃除してください。

- (1) 「止水栓」を閉めて、給水を止める。**【注意 3 参照】**
- (2) 流す「大」または本体の洗浄ボタン/ハンドルを「大」の方へ操作する。
- (3) 本体に向かって左下にある「給水部」を回し、給水ホースごと取り外す。
 ※ このときコップ半分ほどの水がこぼれますので、布などを下に置いてください。
- (4) 給水ホース内の水を完全に抜く。
- (5) 「給水部」から「ストレーナー」を取り外す。
- (6) 「ストレーナー」に付いているゴミを水洗いして完全に除去。
 ※ 流水または洗面器などに水を溜めて水洗いしてください。
 ※ 水洗いで取れないゴミは、歯ブラシなどを使い洗い落とすしてください。
- (7) ストレーナーを給水部の凸部に合わせて取り付け。
【注意 4 参照】
- (8) 「給水部」をしっかり締め付ける。
【注意 5 参照】
- (9) 「止水栓」を元の位置まで開く。
- (10) 止水栓部から水漏れしていないか確認する。



お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は、水を抜いておいてください。

- (1) 「止水栓」を閉めて、給水を止める。**【注意 3 参照】**
- (2) 洗浄ハンドルを操作した状態で 5 秒以上保持してロータンク内の水を抜く。
- (3) 電源プラグをコンセントから抜く。
- (4) 温水タンクから水抜栓を外して、温水タンクから水を抜く。
 ※ あらかじめ水受け（約 1L 以上入るもの）を用意します。マイナスドライバーを使って、水抜栓を反時計回りに 90° 回して外します。
 ※ 出し始めは水の勢いが強い場合がありますので、ご注意ください。
- (5) 水抜き完了後、水抜栓を取り付ける。
- (6) 給水ホースから水を抜く。
 ① 「ストレーナー」の下に布などを置く。
 ② ストレーナーを外して、ストレーナー部や Oリング部に付いているゴミを水洗いして完全に除去。
 ③ 電源プラグをコンセントに差し込む。
 ④ 【ノズルそうじ】を押し、本体バルブ内の水を抜く。
 ⑤ 電源プラグをコンセントから抜く。
 ⑥ 水抜き完了後、ストレーナーをしっかりと締め付ける。
【注意 5 参照】
- (7) 止水栓部から水漏れしていないか確認する。



【注意 3】

● 止水栓を開けたまま給水部を外さない。
 ※ 漏水します。

【注意 4】

● ストレーナーを取り付ける際は、しっかりとハマっていることを確認する。
 ※ 漏水や破損の原因になります。

【注意 5】

● 給水部を取り付ける際は、すき間がないようにしっかりとハマっていることを確認する。
 ※ 漏水します。